

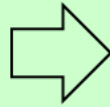
水稲と施設野菜の複合経営による省力化と規模拡大の新たな取り組み ～太田 敏雄 氏〔比布町〕～

経営体の概要

事業実施前：平成14年

基幹作物：水稲、小麦、いちご

経営面積：14.0ha



事業実施後：令和2年

基幹作物：水稲（主食、加工、WCS）
大豆、きゅうり

経営面積：29.0ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

水稲を中心に施設野菜との複合経営を行っていたが、用水路末端地域に位置するため取水の制限等が常態化していた。本事業により水利施設が改修され用水の供給が安定し、水稲の安定生産と用水管理労力が大幅に軽減された。

また、事業を契機に経営面積拡大と大区画化を進め、新たな取り組みとして水稲の高密度播種中苗によるマット苗移植栽培の推進、転作作物のWCS及び大豆作業の請負化による営農の省力化とともに、水稲と農作業が競合しない施設野菜きゅうりの生産による収益力の向上を実現している。

営農改善のポイント

①作物の変化

用水の安定供給、経営面積の拡大、ほ場の大区画化等により農作業を省力化したことから、水稲は付加価値の高い高品質米を作付拡大し、転作作物はWCS及び大豆を作付けし、施設野菜は水稲と作業競合せず収益性の高いきゅうりの栽培を行っている。



WCSの収穫（刈取・ラッピング）

②省力化

最大4ha平均1ha以上の大区画に整備したことで、代かきが10日間程度に半減、日常の水管理労力が2時間から20分に軽減、さらに田植機を高密度播種中苗に対応した直進アシスト機能（GPS付）の導入により作業能率が2ha/日から4ha/日に倍増し、大幅な省力化が図られている。



大区画水田収穫（4haほ場）

③流通・販売の工夫

高収益作物のきゅうり栽培に取り組み、全道一の生産量を誇るJA当麻が施設から苗補給と全量出荷による選果から販売まで対応し、当麻ブランドとして関西・札幌などに出荷しており、比布町内においては最大の生産を担っている。



きゅうりの選果・出荷

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：北海道旭川市、上川郡鷹栖町、
同郡比布町、同郡愛別町

受益面積：3,232ha

事業期間：平成15年度～平成27年度

事業目的：用水改良

主要工事：頭首工1箇所、用水路27.1km

位置図（北海道）



ぴっぷ地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部

農業振興課 調整係

電話：011-709-2311

（内線5684）

（令和2年度調査時点）